

【技術分類】 1 - 2 - 2 メガネの構造 / テンプル / 目的

【 F I 】 G02C 5/14, 5/16

【技術名称】 1 - 2 - 2 - 1 弾性変形による変形応力緩和

【技術内容】

変形応力緩和へのアプローチは、主によろいとテンプルからなされている。テンプルが側頭部を包み込むような形状に婉曲することで、側頭部全体にテンプルが触れるようにして、一箇所にかかる力を分散させているタイプや、テンプルに使う材料を工夫することで応力緩和の効果を出す方法がある。後者の例では、テンプルに弾性率の小さいチタン（型チタン合金）や Ni-Ti 系形状記憶合金を用いることで、しなやかに曲がり、かつ、折れないテンプルを可能とし、変形応力緩和の効果を出している（図 1）。また、柔軟性と耐久性を兼ね備えた超弾性樹脂プラスチック（クリスタルイミド樹脂）や弾性率の大きい非結晶サーモプラスチック（ポリエーテルイミド樹脂）なども用いられる。

【図】

図 1 超弾性チタン合金製テンプル



出典：【出典 / 参考資料】 出典に同じ

【出典 / 参考資料】

出典：株式会社三城 ホームページ

http://w3sv01.paris-miki.co.jp/paris-miki.com/items/index_selection.html

検索日：2006年2月10日

【技術分類】 1 - 2 - 2 メガネの構造 / テンプル / 目的

【 F I 】 G02C 5/14, 5/20

【技術名称】 1 - 2 - 2 - 2 フィッティング調整

【技術内容】

顧客にあったメガネを調整することをフィッティングという。フィッティングのポイントとして、以下の4つが挙げられる。

- ・ メガネの位置調整：左右のテンプルと鼻パッドの幅を合わせる
- ・ 目とレンズの距離調整：パッドや左右のテンプルの耳までの長さを調整する
- ・ 適切なレンズの傾斜角の調整：左右のテンプルの角度を調整する
- ・ レンズの中心を設計：使用目的や生活習慣に合わせてフレームのどの位置にレンズの中心を置くかを決定する

テンプル幅を鼻骨の中心から左右それぞれ顔幅にあわせ、テンプル先の曲げる角度、頭部に添わせる角度を頭部と耳にぴったり合うように調整する。その際、メガネの位置は、美しく見えるとともに、安定感も得られる位置に調整する。視力検査は、角膜頂点からレンズ裏面までの距離を 12mm に設定して行うので、これより長くなったり、短くなったりすると、レンズが本来もっている度数より、強くなったり、弱くなったりするので、好ましくない。また、メガネが離れすぎると、視野が狭くなったり、鼻にかかる重量の負担が大きくなったりするため、左右パッドを調整し、出来るだけ 12mm に近付けるようにする。

適度な弾力性と高いグリップ力を有するゴム素材(Super Toriburen)とステンレス鋼製の特殊バネを一体化し、微妙な長さの調整が自分で可能なタイプのテンプルもある(図1)。

【図】

図1 フィッティング調整が可能な特殊テンプル



出典：【出典 / 参考資料】 出典に同じ、「Pro Style」

【出典 / 参考資料】

出典：「ウインク株式会社 製品カタログ」、ウインク株式会社発行、「Pro Style」

参考資料：協同組合オールジャパンメガネチェーン ホームページ

http://www.ajoc.or.jp/vc_avenue/step/index.html

検索日：2005年12月12日